

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

親子の信頼関係を深める
「コーチング」

学校でも、会社でも教えてもらえない
コミュニケーションの技術を、ぜひ
使ってみませんか？

ご視聴は二次元コードから



続・学校の太陽

異常な暑さに体調を崩しそうになるかと思えば、
急に空がかき曇り、土砂降りの雨が降る――
不安定な天候が続くこの季節ですが、校長先生を
はじめ、教職員の皆さま・・・

続きは二次元コードから



気づきが得られる 学びの動画！

ニッケ教育研究所

理事長 楠本 景央 氏



スマホで読める 感動のコラム！

ニッケ教育研究所

顧問 勝本 孝夫 氏

元・大阪市立榎本小学校校長
元・大阪市立姫里小学校校長



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか？
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で
是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

子どもたちも先生方も、そして地域の皆さんも、それぞれが日々のチャレンジを重ねています。様々な
取組の中で、ときには思い通りにいかず立ち止まることもあります。その経験も大切な学びとなり、
様々な人との関わりを得て次の一步を踏み出す力へと変わっていきます。「良い学び」のためには、チャレ
ンジに集中できる環境を作ること、自分の考えをアウトプットすること、笑顔で学ぶこと、などの要素がある
と考えています。今回の記事に登場した取組には、子どもたちの笑顔や真剣なまなざし、そして支える大
人たちの温かい思いが込められていました。チャレンジの積み重ねはやがて豊かな成長の物語となり、未
来を切り開く力となるのだと改めて感じます。教育の現場から生まれる小さな変化が、社会全体を少し
ずつ良い方向へ導く原動力になると信じて、これからも共に歩みを進めていきたいと思ひます。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

特集

未来につなぐ学校づくり 第8回

一から始まる学校

私がつくる子どもの笑顔 第19回

「みんなが楽しい 笑顔あふれる学校」 をめざして

授業の本質とは何か

授業は、人格と人格を磨き合う場

～子どもと教師がともに育つ“本物の授業”をめざして～

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真は大井平公園（愛知県豊田市）です



子どもたちは、やがてより広い社会との関わりを持っていくことになります。その未来を輝かせるために、必要な力を身につけておくことが大切です。ここでは、中学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。

第8回は、中之島小中一貫校の楠井誠二校長です。

第8回

一から始まる学校

《中之島小中一貫校 大阪市立中之島小学校 大阪市立中之島中学校》
楠井 誠二 校長

本校（大阪市北区）は、2024年4月に開校した新設の施設一体型小中一貫校です。中之島の西に位置し、扇町小学校や天満中学校の校区だった中之島地域と堂島地域を新たな校区としています。周辺には国際的な文化・芸術施設や近代建築、史跡などが点在しており、魅力あふれる地域です。

開校の背景には、周辺地域における過大校や収容の課題への対応があります。そのため、開校時にはこのエリアを優先した全市対象の募集を実施しました。その結果、多くの児童生徒が本校への入学を希望しました。2025年5月1日時点での全校児童生徒数は、小学校440名、中学校175名、合わせて615名となっています。



学校教育目標

相互理解・協働・共創を通して、持続可能な社会を担う グローバル・シティズンシップを育む

- 互いのちがいを尊重し、対等な立場で積極的に関わる（相互理解）
- 個々の力を発揮しながら、課題解決に向けて協力して取り組む（協働）
- 多様な人々との対話を通して、新しい価値を生み出す（共創）
- 発達段階に応じたアイデンティティを形成する（自己理解）

めざす学習者像

ワークスペースの設置

学校施設は、限られた敷地を最大限に活用し、屋外グラウンドや体育館だけでなく、屋上グラウンドや屋内グラウンドなど多彩な運動スペースを確保しています。また、校舎内の各階には「ワークスペース」と呼ばれる共有スペースがあります。グループワーク用テーブルなどを設置することで多様な学習の場を提供し、子どもたちが主体的に活動できる環境を整えています。

このような共有空間が校舎内に多くあることで、子どもたちは休み時間や放課後も仲間とゆったり過ごすことができます。



「初めましての学校」～ 新設校として、小中一貫校として ～

元校のない新設校として、昨年の4月に教職員も児童生徒も全員が「初めまして」の関係から始まりました。全校児童生徒の約6割が校区外からの通学で、学年によってはその割合が9割にも達していました。そのため、すべての学年で子どもたちの状況や関係性を把握することから始める必要がありました。また、教職員も様々な学校から集まってきたばかりで、

過去の慣例がない中で学校行事などを実施しなければなりません。さらに、小学校と中学校の文化の違いもあり、小中一貫校として戸惑う場面も多々見られました。

しかし、逆にこの状況を本校の強みと捉え、**新設校であるからこそ慣例に捉われず**、やってみて、上手いかなければやり方を変えるという姿勢を大切にしました。また、小学校や

中学校のこれまでのやり方で上手いきそうな場合でも、安易に採用するのではなく、**小中一貫校としてどうあるべきか**ということにこだわる姿勢を大切にしました。

そうして昨年6月には運動会を、今年1月には開校記念式典と同日開催した「中之島ドリームフェスティバル」を、それぞれ全校児童生徒が参加して実施できたことは大きな成果でした。これらの大きな行事も、今年度は昨年度とはまた違う形で実施することになっています。

また本校では、中学校の生徒会活動に小学校5・6年生の立候補者が加わり、「児童生徒会」として活動を行っています。従来の5・6年生全員が参加する委員会活動も並行

「コア・プロジェクト」～ 探究的な学習活動の推進 ～

本校では、学校教育目標の達成に向けて、生活科や総合的な学習の時間を中心とした取組を「コア・プロジェクト」と位置づけ、教育課程の核としています。子どもたちの資質・能力の育成を目指し、各学年のテーマや探究課題を9年間の見通しのもとで策定しています。それに基づいて設定した今年度の各学年の単元名は、下表に示す通りです。探究的な学習活動を中心に進めていくにあたり、**「社会に関わった教育課程」**を意識した取組を行っています。そのため、各学年の活動では、教育資源の掘り起こしも兼ねて、地域や外部の企業・団体の協力を得ながら学習を進めています。また、単なる出前授業にとどまらず、**企業等から課題を提示していただく**など、一定期間にわたって**学習活動に伴走していただく**形も積極的に取り入れています。

例えば、昨年度の8年生のコア・プロジェクトでは、TOPPAN株式会社、住友生命保険相互会社、カネテツデリカフーズ株式会社から課題を提示していただき、何度も壁打ちを重ねながら解決策を模索し、最終的には校区内にある「中之島クロス」のラウンジスペースをお借りして、企業の方々にプレゼンテーションを行いました。また6年生では、SDGsに関連して「紙のリサイクル」がテーマに取り上げられました。TOPPAN株式会社の協力を得ながら、旭進紙業株式会

して行い、児童生徒会の活動と連動させています。このように、小中学生が一緒になって「どうすれば、みんなが過ごしやすい学校になるか」といった学校全体の課題について、話し合い活動を進めています。今後も、より良い活動のあり方を模索していきたいと考えています。



社（回収）、株式会社リバース（再生）と連携し、子どもたちが古紙の回収方法を考案しました。学校で回収した古紙はトイレトーパーに再生され、そのトイレトーパーを学校で使用するという学習活動も行いました。この活動は今年度から学校全体の取組とし、児童生徒会の活動として引き継がれています。

今年度も、各学年のコア・プロジェクトにおいて、地域や多くの企業・団体にご協力いただく予定となっています。新設校ですので、地域や企業等とのつながりが全くない状態からのスタートでした。そこで、昨年から今年にかけて、地域の教育資源の掘り起こしを、教員が中心となって積極的に行っているところです。その一方で、これまで学校のなかった中之島地域に新たに学校ができたことで、地域や企業等から「子どもたちのために学校と連携して何かできないか」といった働きかけをいただく機会も増えており、非常にありがたく感じています。

探究的な学習活動を中心に据えたコア・プロジェクトが、単なるイベントで終わってしまわないよう、日々の授業全体に探究的な視点を取り入れ、学びの質を高めていきたいと考えています。そのうえで、コア・プロジェクトを日々の学びの集大成として位置づけたいと考えています。

各学年のコア・プロジェクト		
学年	単元名	関連する教科等
1年	がっこうたんけん～がっこうのステキはっけん！～	生活科・国語科・学級活動
2年	NAKANOSHIMA QUEST ～中之島のステキを見つけよう～	生活科・国語科・学級活動
3年	CITY HUNTER ～私たちのまち 魅力ある OSAKA～	社会科・国語科・総合的な学習の時間
4年	中之島防災計画 ～私たちが守る、私たちのまち～	社会科・国語科・総合的な学習の時間・学校行事
5年	Save the world! 地球に優しい食生活	社会科・家庭科・総合的な学習の時間
6年	Hey 和 ～わたしの平和宣言～	社会科・国語科・総合的な学習の時間・学校行事
7年	持続可能な文化の伝承 ～世界に届け！おおさか文化～	特別活動・総合的な学習の時間
8年	職場体験 ～SDGsにつながる仕事を体験しよう～	特別活動・総合的な学習の時間
9年	Well-being を高める私たちのキャリア発達	特別活動・総合的な学習の時間

おわりに

開校間もない今だからこそ、「伝統がないこと」を大切にしています。数年で慣例や伝統をつくってしまうのではなく、児童生徒・保護者・地域の皆さんと共に、トライ＆エラーの姿勢を

大切にしながら、時間をかけて中之島小中一貫校としてのより良い学校文化を築いていきたいと考えています。



中之島クロスでのプレゼンテーションの様子(8年生)

私がつくる 子どもの笑顔

第19回 「みんなが楽しい 笑顔あふれる学校」をめざして

《大阪市立中央小学校》 田中 一郎 校長

本校（大阪市中央区）は、1991年、歴史ある桃谷くもだに・桃園くとうえん・東平くとうへい・金甌くきんおうの4小学校が、全国で初めて4校同時に統合されて誕生した学校です。中央小学校としての歴史は、今年でまだ35年目と浅いですが、創立当時から「清く 明るく たくましく」という保護者や地域の方々の強い願いを校訓に掲げ、子どもを中心に据えた教育を学校・保護者・地域が連携して脈々と受け継いでいます。



学校教育目標

心身ともにたくましく 自らすすんで学ぶ 心豊かな子どもを育てる

めざす学校像

みんなが楽しい 笑顔あふれる学校

校訓

清く 明るく たくましく

みんなでつくる学校生活

★ みんなのヒーロー「中央レンジャー」

統合された4つの学校をモチーフに「中央レンジャー」が誕生しました。その伝統は今も受け継がれ、さまざまな場面で子どもたちを笑顔にしてくれる、みんなのヒーローです。

桃谷レッド！

桃園ブルー！

東平グリーン！

金甌イエロー！



代々引き継がれる「中央レンジャー」

Q どうして「中央レンジャー」は4人いるんですか？
みんなの住んでいる4つの地区を守っているんだよ A

★ みんなで仲良く、楽しい学校づくり「児童会活動」

毎年春に「児童会開き」を行い、みんなで仲良く、楽しい学校にするための年間テーマを決めています。今年のテーマは「6枚の花びらで大きな花を咲かせよう」です。「思いやり」「えがお」「こせい」「たのしい」「げんき」「なかよしことば」の6つの花びらを大切に育て、大きな花を咲かせられるように、みんなの力を合わせて取り組んでいます。



子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざし、現場ではさまざまな創意工夫が活かされています。ここでは、小学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。第19回は、大阪市立中央小学校の田中一郎校長です。

★ あいさつできれいな花火を！「あいさつ週間」

毎月第3週を「あいさつ週間」として設定しています。元気なあいさつから学校を楽しく元気にしていこうと、児童会が中心となって、さまざまな工夫を凝らした活動を行っています。今年の夏には、元気で大きなあいさつができたお友だちに「花火カード」を配り、みんなで「あいさつの花火」を打ち上げました。ほかにも、「ごみゼロマンデー」や「清潔調べ週間」などを定期的 to 実施し、みんなでよい学校生活をつくるという意識を高めています。



あいさつの「花火カード」

★ みんなで仲良く、絆を深める「たて割り班活動」

全校で850人を超える大きな学校ですが、1年生から6年生までのみんなが仲良くなれるよう、「たて割り班活動」を行っています。活動は毎週木曜日の集会活動を中心に、ふれあい集会、折り鶴集会、卒業おめでとう集会など、さまざまな取組があります。今年からは、活動班を「うれC班（1～12班）」と「たのC班（13～24班）」に編成し、活動場所を分けることで内容の幅を広げ、より楽しく多様な活動になるよう工夫しています。

いじめのない学校づくり

本校には、開校当初から大切にされている「やくそく」と「ことば」があります。

✿ 中央小のやくそく ✿

自分がされて嫌なことは、人にもしない。自分が言われて傷つくことは、人にも言わない。

✿ 中央なかよしことば ✿

うれしい言葉、元気になる言葉、やる気が出る言葉

この2つを踏まえ、いじめのない学校づくりを目指しています。また、大阪市が取り組む「いじめ・命を考える日」に合わせて、年に2回、**みんなでいじめや命について考え**

今一度、見つめなおそう 命の尊さ

世界中がパンデミックによって立ち止まらざるを得なかったコロナ禍。だからこそ、この困難な時期を「命の大切さを学ぶよい機会ではないか」と考え、**平和学習**を始めました。以来、ニュースなどを通して平和について考える機会が増える7月上旬を「**平和ウィーク**」と名付け、各学年で計画的な学習を行っています。また、平和への願いを込めた「**折り鶴集会**」も行っています。集会では、たて割り班ごとに集まり、それぞれが「平和への願い」を折り紙に書いたあと、気持ちを込めて鶴を折ります。児童と教職員を合わせると、人数はおよそ1000人。一人一羽ずつ折ることで、千羽鶴が完成します。鶴を折るという行為を通じて、佐々木禎子さん（※）の願いに思いをさせ、**一人ひとりが平和の大切さを意識する時間を持つこ**

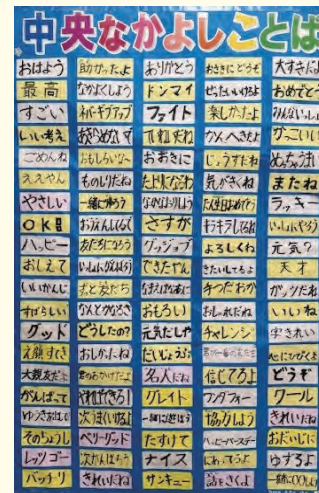
思いを一つに 保護者・地域と進める学校づくり

学校がある地域には、お寺や神社、昔の面影を残す貴重な町屋や長屋、路地や坂などが数多く残っています。そして、生魂神社や高津宮の夏祭りをはじめ、各町会による楽しい行事が盛んに行われています。また、「子ども見守り隊」の皆さんがいつも児童の登下校を見守ってくださっています。さらに、キックベースボール、ソフトボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、卓球、体操、空手など、さまざまなスポーツクラブがあり、人と人とのつながりに満ちあふれた地域です。加えて、開校以来続いているPTA主催の「わいわい祭り」は、桃谷・桃園・東平・金甌の4連合地域の諸団体と協力して開催されており、**地域全体で子どもたちを育てよう**という熱い思いにあふれています。

おわりに

変化が激しく、予測が難しい現代社会。いじめや不登校、教員不足、そして働き方改革など、教育現場には多くの課題が山積しています。これらの課題を乗り越えるためには、まず学校が元気で、子どもたちや教職員、保護者、そして地域全体が「楽しい！」「笑顔になれる！」と思えることが、何より大切ではないでしょうか。学校は、子どもたちが未来へ向かってたくましく育つための土台です。この土台

る日を設けています。当日は、全校朝会でいじめに関する絵本の読み聞かせを行い、各教室ではそれを自分たちの立場に置き換えて考える時間を設けます。そして、考えたことを一人ひとりが短冊に書き、掲示することで、いつでもその気持ちを振り返られるようにしています。



とが大切だと考えています。この取組を続ける中で、リーダーである6年生が、鶴の折り方だけでなくその意味もしっかりと伝えている姿が見られました。完成した千羽鶴は、6年生が代表してピースおおさか（大阪国際平和センター）へ届けています。

※ 広島平和記念公園内にある「原爆の子の像」のモデルになっている人物。彼女が折り続けた千羽鶴は、平和の象徴として世界中で語り継がれている。



折り鶴集会

コロナ禍で一時途絶えていた交流もありました。その困難を乗り越えた今、子どもたちが自分たちの素晴らしい地域に目を向け、感謝し、誇りを持てるような教育活動に取り組んでいます。これからも、学校・保護者・地域の思いを一つに、中央小学校を中心としたコミュニティづくりを進めていきたいと考えています。



商店街見学

をしっかりと支えるためには、学校だけが頑張るのではなく、保護者や地域など、みんなが力を合わせる必要があります。これからも、子どもたちを中心にみんなが手を取り合い、温かく、そして力強いコミュニティを築いていきたいと考えています。子どもたちの笑顔が、関わるすべての人々を元気にし、それがまた子どもたちの成長を支える力になる——この素晴らしい循環を、大切に育んでいきます。

授業は、人格と人格を磨き合う場 ～子どもと教師がともに育つ“本物の授業”をめざして～

《ニッケ教育研究所顧問》
勝本 孝夫

かつもと たかお
元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）



「授業」と聞いて、多くの人が思い浮かべるのは、知識や技能を教える場でしょう。もちろん、それは教育の重要な役割です。しかし、授業の本質はもっと深いところにあります。授業とは、子どもたちが他者と関わりながら生きていくための価値観や姿勢を育む場であり、同時に教師自身が成長する場でもあるのです。つまり、お互いが影響し合う関係性の中で、人格が磨かれていく場でもあるのです。

しかし、そのような授業を実現するには、事前の授業計画だけでは不十分です。子どもの表情やつぶやきに敏感に反応し、臨機応変に対応する力が求められます。私が新任教員だった頃、それを痛感した出来事がありました。



授業は何のためにあるのか

研究授業での過ち

その日、私は算数の研究授業を行いました。教室には多くの先生方が来られていて、「計画通りに進め、良い授業をお見せしよう」と意気込んでいました。授業は順調に進んでいましたが、ある子の予想外の発言で流れが乱れ、私は焦って頭の中が真っ白になってしまいました。それでも、どうか気持ちを落ち着かせ、最後のまとめにたどり着くことができました。授業終了後はひとまず安堵し、子どもたちに感想を書いてもらいました。

—— 今日の算数の勉強は、おもしろくなかったです。私が一生けんめいに言ったのに、となりの子がわらったからです。

この感想を読んだ瞬間、胸を締めつけられる思いがしました。その子が笑われていることに、私は気づいていなかったのです。授業の進行を優先するあまり、子どもたちの心に寄り添えていなかったのです。



3層の土台が“本物の授業”を支える

変化した授業観

この出来事をきっかけに、授業の進行だけでなく、子どもたちの発言や何気ないつぶやきを大切にしよう心掛けました。そうした声を拾っていくことで、子どもたちの思いをより深く理解し、一人ひとりの持ち味を知ることにもつながりました。その結果、子どもたちが前のめりになる授業を行えるようになり、思考力・判断力・表現力が豊かに引き出されていきました。



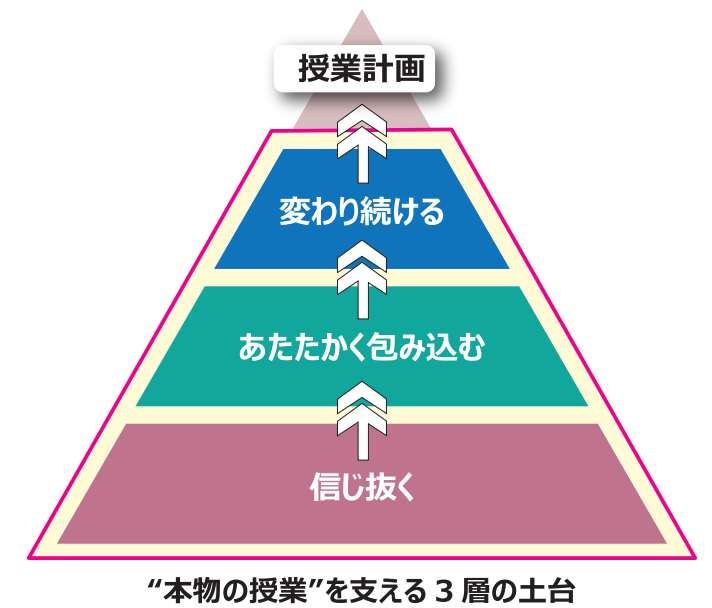
人格と人格を磨き合う

新たな挑戦を続ける中で、K先生の言葉の深さを、より実感するようになりました。そしてある日、子どもの思いをしっかりと受け止めるためには、自分自身の心の器を広げなければならぬことに気づきました。昨日よりは今日、今日よりは明日というように、自身の心の殻を日々打ち破っていくことが必要だと感じました。広い、謙虚な心で子どもたちと接し、子どもたちから学び、ともに成長していく——それこそが、人格と人格を磨き合う“本物の授業”なのだと深く実感しました。

授業を支える土台づくり

さらに経験を重ねるうちに、“本物の授業”を実現するためには、それを支える土台が必要であることに気づきました。教師の関わり方次第で、子どもたちの旺盛な好奇心は自然に引き出されます。しかし、それは、学級内に望ましい人間関係が築かれていてこそ可能なのです。そうした土台がなければ、単に授業計画を立てても、子どもたちの内面の成長や主体的な学びを促すことは難しいでしょう。私は、その土台は3つの層から構成されていると考えています。

信じ抜く・・・子どもの可能性を最後まで信じる
子どもの表面的な理解や行動にとらわれず、内在する力を慈愛の心で見守り続ける
あたたかく包み込む・・・子どもの発言を頭から否定せず受け入れる
子どもが安心して自分を表現できる場を作り、違いを認め合える環境を整える
変わり続ける・・・教師自身が学び、向上し続ける
常に自分を更新する存在である子どもたちと対話することを念頭に、教師自身が変化を恐れず柔軟に学び続ける



この3層の土台を基に、授業計画を立てることが重要だと考えています。

他者の実践から学ぶ

私は、小学校の校長として学校グランドデザインを策定するにあたり、学校教育目標に「“立ち向かい、乗り越える力”の育成」を掲げました。この目標の実現に向けて、「研究の推進」と「教職員の資質向上」に取り組みました。これは、**教師が授業で真剣に勝負**できるよう、日々の実践を積み重ねることを意味しています。そして、教師それぞれが**質の高い授業に触れること**が何より重要だと考え、国語教育の第一人者である桂聖氏（注1）と森川正樹氏（注2）に師範授業をお願いしました。

両氏の授業は、終始、あたたかな雰囲気にも包まれていました。自然な流れの中で一人ひとりの思考を引き出し、互いの交流を促すことで、教科内容への理解を深めていきました。初対面の子どもたちを相手にしながらも、まさに“本物の授業”が展開されていたのです。

授業後、子どもたちは口々に言いました。
「よくわかって、楽しかった」
「思い通りに意見を言えて、すっきりした」
「もっと、この先生の授業を受けたい」
その笑顔と声に、私は“本物の授業”の力をあらためて実感させられました。そして、教師それぞれが、授業づくりの新たな視点を得たと確信したのです。

（注1）桂聖（かつらさとし）：共愛学園前橋国際大学准教授。元・筑波大学附属小学校教諭。一般社団法人日本授業UD学会理事長。「国語授業のユニバーサルデザイン」など著書多数。

（注2）森川正樹（もりかわまさき）：関西学院初等部教諭。全国大学国語教育学会会員。教師塾「あまから」代表。「小学生の究極の自学ノート図鑑」など著書多数。

子どもたちの元気な声と笑顔にあふれる学校では、学びが確実に深まり、学校生活も豊かになります。その結果、諸課題を乗り越え、子どもたちと向き合う時間をさらに確保できる

ようになるでしょう。授業は、単に知識や技能を教える場ではなく、互いの人格を磨き合う場でもあると強く感じます。

ホームページで「講演動画」公開中！

ニッケ教育研究所 ビデオギャラリー

教師の皆さまへ 模擬授業形式の特別講演

「教師の日常改革」

〈講師〉関西学院初等部 教諭 **森川 正樹 先生**

スマホから、ご視聴いただけます

授業が変われば
学びが変わる！
子どもが変わる！

動画のご視聴はこちらから